

(15年度後期)全学教育科目(実験科目を除く)の「学生による授業評価」の結果

1.1 欠席回数:(表1参照)

- a. 全体として、欠席なしが60.7%、欠席1回以下が82.5%、欠席2回以下が92.8%であった。
 b. 欠席回数4回以上の者が、言語文化科目で4.7%、高年次履修科目で4.1%、コア教養科目と外国語コミュニケーション科目で3.2%であった。

- c. 15年度前期は、欠席なしが67.2%、欠席1回以下が85.9%、欠席2回以下が93.7%で、後期に欠席なしの者が前期より増えているのは健康・スポーツ科学 実習(+6.5%)と個別教養科目(+1.5%)であった。なお、前期と比較して、後期の欠席なしの減少分は、1回ないし2回欠席へと移行し、3回以上欠席した者の前期からの増加は1%であった。

表1 教育科目別の欠席回数の割合(%)

上段:15年度前期
下段:15年度後期

教育科目区分	質問C あなたのこの授業の欠席回数は?					
	全回答数	なし	1回	2回	3回	4回以上
コア教養科目	3537	67.5	17.5	7.5	3.8	2.8
	1757	61.0	19.6	10.3	5.3	3.2
個別教養科目	3662	59.1	19.3	10.5	5.4	4.7
	2576	60.6	21.0	10.4	5.1	2.1
少人数ゼミナールA	553	76.9	18.4	3.3	0.9	0.0
	197	62.4	25.4	8.6	2.0	1.0
少人数ゼミナールB	280	72.1	20.4	4.6	1.4	0.4
	116	68.1	27.6	3.4	0.9	0.0
少人数ゼミナールC	153	66.0	25.5	5.2	2.6	0.0
	113	54.9	31.0	7.1	6.2	1.8
高年次履修科目	282	50.7	23.8	16.3	6.7	1.4
	468	43.2	20.1	18.8	13.2	4.1
言語文化科目	9553	66.5	19.8	8.2	3.7	1.1
	7935	59.2	23.1	10.9	4.9	1.4
言語文化科目	231	37.2	30.7	19.0	9.5	3.0
	168	28.1	31.0	25.7	8.8	4.7
外国語コミュニケーション科目	138	37.7	28.3	17.4	12.3	2.9
	64	33.3	30.2	19.0	12.7	3.2
健康・スポーツ科学 講義	697	78.8	14.5	3.7	2.3	0.6
	731	62.2	22.8	9.3	4.0	1.2
健康・スポーツ科学 実習	682	46.5	27.3	15.8	8.2	1.2
	1314	53.0	27.5	13.2	4.7	0.9
基礎科学科目	7009	71.3	16.9	6.2	3.1	1.9
	4065	67.4	18.5	7.8	3.1	2.1
情報処理科目	783	85.1	10.5	2.3	1.0	0.3
	589	76.2	16.0	3.9	2.4	0.7

教育科目として表に記載していない健康・スポーツ科学 実習は、15年度後期において、授業が1クラス、また、基礎科学科目は4クラスの回収数が22(登録者数32名)であった。

1.2 学生の努力評価:(表2参照)

a. 授業の理解修得のために努力したという自己評価(「かなり努力した」と「ある程度努力した」をあわせて)が50%を超えているのは、言語文化科目(68.5%)>言語文化科目(59.9%)>少人数ゼミナールC(57.6%)>少人数ゼミナールA(55.8%)>情報処理科目(52.8%)であった。

b. 逆に、努力しなかったという自己評価(「あまり努力しなかった」と「ほとんど努力しなかった」をあわせて)が50%を超えているのは、コア教養科目(59.3%)>健康・スポーツ科学講義(57.6%)>個別教養科目(54.6%)>高年次教養科目(53.6%)であった。

表2 教育科目別の学生の努力評価の割合(%)

上段:15年度前期
下段:15年度後期

教育科目区分	質問D あなたはこの授業の理解修得のために 予習・復習を含めて努力しましたか?					
	全回答数	かなり 努力した	ある程度 努力した	どちらとも 言えない	あまり 努力 しなかった	ほとんど 努力 しなかった
コア教養科目	3537	3.7	11.7	20.9	21.7	38.4
	1757	3.1	12.1	22.4	19.9	39.4
個別教養科目	3662	5.2	13.6	19.4	16.9	41.3
	2576	5.8	14.3	22.4	16.7	37.9
少人数ゼミナールA	553	19.3	34.9	21.5	10.1	10.1
	197	19.8	36.0	17.8	10.2	14.2
少人数ゼミナールB	280	23.9	42.1	15.4	6.4	7.5
	116	12.1	35.3	16.4	13.8	19.0
少人数ゼミナールC	153	21.6	36.6	22.2	4.6	11.8
	113	25.7	31.9	25.7	7.1	9.7
高年次履修科目	282	1.4	15.6	21.6	25.5	32.6
	468	1.5	18.4	23.7	23.3	30.3
言語文化科目	9553	15.8	45.5	16.4	11.0	7.6
	7935	15.4	44.5	17.4	11.1	8.1
言語文化科目	231	15.6	51.9	18.2	6.1	5.2
	168	12.9	55.6	14.0	8.2	4.7
外国語コミュニケーション科目	138	15.2	33.3	11.6	13.0	24.6
	64	6.3	36.5	11.1	11.1	30.2
健康・スポーツ科学 講義	697	3.4	12.3	20.5	19.1	40.3
	731	3.0	12.9	24.1	21.6	36.0
健康・スポーツ科学 実習	682	13.0	18.8	20.4	6.0	40.0
	1314	17.7	11.3	21.1	5.5	4.1
基礎科学科目	7009	7.5	34.1	24.2	16.4	14.3
	4065	10.1	32.3	23.6	15.9	14.9
情報処理科目	783	16.9	34.6	20.1	10.9	14.6
	589	14.6	38.2	20.2	9.5	14.6

1.3.1 学生自身にかかわる積極評価：

(表3-1参照)

質問E(積極評価)の、学生が授業の成果を自己評価する5項目(「E1:授業内容が今後につながるものだった」、「E3:授業を通して調べる姿勢を獲得した」、「E5:授業を通して考える力を培った」、「E7:授業に能動的な姿勢で参加した」、「E9:勉学への動機づけが高まった」)に関して、

- a. 健康・スポーツ科学科目 実習を除くすべての教育科目において、「授業内容が今後につながるものだった」という項目に対する回答率がもっとも高かった(31.9~72.1%)。なお、健康・スポーツ科学科目 実習においては、「授業に能動的な姿勢で参加した」の回答率が55.7%であった。
- b. 「授業を通して調べる姿勢を獲得した」が高かったのは、少人数ゼミナールC(46.9%)>同A(44.2%)>同B(35.3%)であった。その次に高いのは、言語文化科目(14.0%)であり、項目E3に関しては、少人数ゼミナールとその他の科目との間に差があった。
- c. 「授業を通して考える力を培った」が高いのは、少人数ゼミナールC(42.5%)>同A(38.6%)>同B(32.8%)であり、それに次いで、基礎科学科目(27.5%)>個別教養科目(26.4%)>言語文化科目(25.1%)であった。
- d. 「能動的な姿勢で参加した」がもっとも高いのは、健康・スポーツ科学科目 実習(55.7%)で、その次が、少人数ゼミナール(44.8%~32.5%)と言語文化科目(36.6%、26.1%)であった。
- e. 「勉学への動機づけが高まった」の回答率は、他の質問項目への回答率と比較して、教育科目間での違いが小さく、少人数ゼミナール(19.3~25.0%)と言語文化科目(13.9~26.9%)が高かった。
- f. 学生自身についての積極評価である5項目の回答率を合計する(Ea計)と、少人数ゼミナールC(212.5%)>少人数ゼミナールA

(206.7%)>少人数ゼミナールB(184.5%)>言語文化科目(160.8%)となった。Ea計が相対的に小さいのは、健康・スポーツ科学 講義(73.0%)<コア教養科目(76.1%)<基礎科学科目(93.4%)であった。

なお、15年度前期の「E3:授業を通して観察する力を獲得した」という質問を、15年度後期には「E3:授業を通して調べる力を獲得した」と変更した。学生自身についての積極評価の全授業の平均を前期と後期とで比較すると、E1は44.1% 46.4%、E3は8.8% 10.5%、E5は22.1% 20.6%、E7は21.3% 21.6%、E9は8.2% 11.0%の変動となった。変更したE3の回答率の変化は+1.7%であり、他の4項目の回答率の変動と比較して、大きくもなく小さくもなかった。

また、学生自身についての積極評価における平均の変化が全授業においては小さかったのに対して、科目別には増・減の両方向へ大きな変動がみられた。E1に関して、少人数ゼミナールAが52.1% 72.1%(+20.0%)、少人数ゼミナールBが65.0% 46.6%(-18.4%)、外国語コミュニケーション科目が75.4% 57.1%(-18.3%)、E3に関して、少人数ゼミナールCが23.5% 46.9%(+23.4%)、少人数ゼミナールAが23.0% 44.2%(+21.2%)、E5に関して、少人数ゼミナールBが54.3% 32.8%(-21.5%)、外国語コミュニケーション科目が31.2% 15.9%(-15.3%)、E7に関しては、10%を超える変動はなく、E9に関しては、言語文化科目が10.8% 26.9%(+16.1%)といった変動があった。前期と後期とで相対的に大きな変動が生じたのは、少人数ゼミナールと外国語科目であった。

g. 前期と後期の5項目の回答率の合計は、コア教養科目では75.2% 76.1%(+0.9%)、個別教養科目で116.0% 115.6%(-0.4%)、少

人数ゼミナール A で 156.7% 206.7% (+50.0%)、少人数ゼミナール B で 210.3% 184.5% (-25.8%)、少人数ゼミナール C で 168.6% 212.5% (+43.9%)、高年次履修科目で 121.6% 115.5% (-6.1%)、言語文化科目で 111.1% 122.2% (+11.1%)、言語文化科目で 148.5% 160.8% (+12.3%)、外

国語コミュニケーション科目で 168.1% 125.3% (-42.8%)、健康・スポーツ科学科目講義で 83.2% 73.0% (-10.2%)、健康・スポーツ科学科目 実習で 145.5% 106.0% (-39.5%)、基礎科学科目で 88.0% 93.4% (+5.4%)、情報処理科目で 121.2% 103.3% (-17.9%)と変動した。

表 3 - 1 教育科目別の学生自身にかかわる積極評価の割合 (%)

上段：15 年度前期
下段：15 年度後期

教育科目区分	質問 E あなたがこの授業を履修して良かったと思うことは？ (複数回答可)						
	全回答数	(E1) 授業内容が 今後につながるものだった	(E3) 授業を通して調べる姿勢を獲得した	(E5) 授業を通して考える力を培った	(E7) 授業に能動的な姿勢で参加した	(E9) 勉学への動機づけが高まった	E a 計
コア教養科目	3537 1757	32.0 31.9	11.0 8.0	20.6 18.2	6.7 8.3	4.9 9.7	75.2 76.1
個別教養科目	3662 2576	48.0 51.4	16.9 10.8	25.9 26.4	13.2 15.2	12.0 11.7	116.0 115.5
少人数ゼミナール A	553 197	52.1 72.1	23.0 44.2	43.4 38.6	27.7 32.5	10.5 19.3	156.7 206.7
少人数ゼミナール B	280 116	65.0 46.6	29.6 35.3	54.3 32.8	45.0 44.8	16.4 25.0	210.3 184.5
少人数ゼミナール C	153 113	56.2 61.1	23.5 46.9	38.6 42.5	34.6 37.2	15.7 24.8	168.6 212.5
高年次履修科目	282 468	61.0 65.2	14.9 5.3	23.0 19.0	17.7 14.7	5.0 11.3	121.6 115.5
言語文化科目	9553 7935	47.6 49.3	6.3 14.0	20.0 18.9	28.0 26.1	9.2 13.9	111.1 122.2
言語文化科目	231 168	66.7 60.2	7.8 12.3	26.0 25.1	37.2 36.3	10.8 26.9	148.5 160.8
外国語コミュニケーション科目	138 64	75.4 57.1	10.1 6.3	31.2 15.9	30.4 22.2	21.0 23.8	168.1 125.3
健康・スポーツ科学 講義	697 731	52.9 52.3	4.6 2.1	9.9 7.1	10.5 7.8	5.3 3.7	83.2 73.0
健康・スポーツ科学 実習	682 1314	38.1 40.7	7.2 2.0	18.8 4.3	61.3 55.7	20.1 3.3	145.5 106.0
基礎科学科目	7009 4065	35.7 39.0	7.0 6.3	27.9 27.5	13.3 12.6	4.1 8.0	88.0 93.4
情報処理科目	783 589	61.3 49.6	6.1 9.5	26.8 19.4	20.4 19.2	6.6 5.6	121.2 103.3

列 (E3) において、15 年度前期はの回答率は、「授業を通して観察する力を獲得した」という質問項目に対するもの

1.3.2 授業担当者にかかわる積極評価： (表3-2参照)

授業担当者にかかわる積極評価の5項目
(「E2：授業内容の構成が適切なものだった」、
「E4：授業の準備が適切になされていた」、
「E6：授業に双方向性があった」、
「E8：教師に教育者としての熱意を感じた」、
「E10：学者・研究者との出会いがあった」)に関して。

- a. 「授業内容の構成が適切なものだった」の回答率が高いのは、言語文化科目 (30.4%)と
言語文化科目 (29.5%)で、回答率が低いのは、
少人数ゼミナールC (15.9%)と情報処理科目
(16.5%)であった。他の教科科目は
23.4~19.0%であり、教育科目間の差が小さかった。
- b. 「授業の準備が適切になされていた」の回答率
は、高い順に、少人数ゼミナールB
(31.9%)>高年次履修科目(29.3%)>個別
教養科目(28.9%)となり、健康・スポーツ科学
実習(8.2%)がもっとも低かった。
- c. 「授業に双方向性があった」の回答率は、言語
文化科目 (28.7%)>少人数ゼミナールA
(28.4%)>外国語コミュニケーション科目
(25.4%)>少人数ゼミナールC (24.8%)
>少人数ゼミナールB (23.3%)が高く、コア
教養科目(3.8%)<基礎科学科目(4.4%)<
情報処理科目 (4.9%)が低かった。
- d. 「教師に教育者としての熱意を感じた」の回
答率は、言語文化科目 (43.9%)が最も高く、
情報処理科目 (5.6%)が最も低く、他の教
育科目は29.9~18.4%であった。
- e. 「学者・研究者との出会いがあった」の回
答率は、高い順に少人数ゼミナールC
(13.3%)>少人数ゼミナールA (12.2%)>
少人数ゼミナールB (6.9%)>であった。

なお、15年度前期の「E10：学問・研究への関心
が広がった」という質問を、15年度後期には
「E10：学者・研究者との出会いがあった」と
変更した。前期と後期を比較すると、少人数
ゼミナールAで39.6%
12.2%、少人数ゼミナールBで47.0%

6.9%、少人数ゼミナールCで37.5%
13.3%というように、いずれの科目におい
ても、回答率の大きな減少という変動があ
った。

- f. 前期と後期の比較で大きな変動は、「授業内
容の構成が適切なものだった」に関して、外国
語コミュニケーション科目(37.7% 20.6%
(-17.1%))で、「授業に双方向性があった」
に関して、少人数ゼミナールA(17.9%
28.4%(+10.5%))で、「教師に教育者として
の熱意を感じた」に関して、健康・スポーツ科
学実習(33.9% 23.0%(-10.9%))で生じ
た。
- g. 授業担当者にかかわる積極評価である5項目
の回答率を合計する(Eb計)と、高い順に、
言語文化科目(124.6%)>少人数ゼミナ
ールB(103.4%)>少人数ゼミナールA
(101.0%)>外国語コミュニケーション科目
(100.0%)であった。低い順に、情報処理科
目(41.8%)<基礎科学科目(61.9%)<
健康・スポーツ科学実習(63.6%)<コア
教養科目(66.4%)となった。
- h. Eb計を、質問項目を変更して回答率に大き
な変動があったE10を除いて、前期と後期で
比較すると、コア教養科目で55.6% 66.4%
(+10.8%)、少人数ゼミナールAで72.5%
101.0%(+28.5%)、健康・スポーツ科学講
義で69.4% 80.5%(+10.1%)の増加が、言
語文化科目で131.7% 120.5%(-11.2%)、
外国語コミュニケーション科目で128.3%
100.0%(-28.3%)、健康・スポーツ科学実
習で82.8% 63.6%(-19.2%)の減少があ
った。

表3 - 2 教育科目別の授業担当者にかかわる積極評価の割合 (%)

上段：15年度前期
下段：15年度後期

教育科目区分	質問E あなたがこの授業を履修して良かったと思うことは？ (複数回答可)						E b 計
	全回 答数	(E2) 授業内容の 構成が適切 なものだっ た	(E4) 授業の準備 が周到にな されていた	(E6) 授業に双方 向性があっ た	(E8) 教師に教育 者としての 熱意を感じ た	(E10) 学者・研究 者との出会 いがあった	
コア教養科目	3537	15.0	19.9	4.6	16.5	27.7	83.7
	1757	19.0	21.6	3.8	22.0	4.4	70.8
個別教養科目	3662	20.5	27.3	10.8	23.9	37.1	119.6
	2576	21.8	28.9	11.9	23.9	6.4	92.9
少人数ゼミナールA	553	15.6	18.4	17.9	20.6	39.6	112.1
	197	23.4	19.3	28.4	29.9	12.2	113.2
少人数ゼミナールB	280	23.9	27.9	28.9	29.3	47.0	157.0
	116	19.8	31.9	23.3	28.4	6.9	110.3
少人数ゼミナールC	153	15.0	21.6	19.0	20.3	37.5	113.4
	113	15.9	21.2	24.8	21.2	13.3	96.4
高年次履修科目	282	22.7	31.9	12.1	18.4	35.5	120.6
	468	23.1	29.3	14.5	18.6	3.0	88.5
言語文化科目	9553	28.7	17.3	17.9	29.8	13.0	106.7
	7935	29.5	17.3	20.0	27.8	1.7	96.3
言語文化科目	231	34.2	18.2	37.7	41.6	21.3	153.0
	168	30.4	17.5	28.7	43.9	4.1	124.6
外国語コミュニケーション科目	138	37.7	32.6	26.8	31.2	28.3	156.6
	64	20.6	25.4	25.4	28.6	3.2	103.2
健康・スポーツ科学 講義	697	22.2	21.1	4.4	21.7	10.9	80.3
	731	22.7	25.2	5.5	27.1	2.2	82.7
健康・スポーツ科学 実習	682	24.2	13.3	11.4	33.9	3.8	86.6
	1314	20.5	8.2	11.9	23.0	2.5	66.1
基礎科学科目	7009	21.9	18.0	4.6	21.4	14.0	79.9
	4065	22.3	16.8	4.4	18.4	2.9	64.8
情報処理科目	783	13.5	16.9	4.2	6.8	16.0	57.4
	589	16.5	14.8	4.9	5.6	0.8	42.6

列(E10)において、15年度前期の回答率は、「学問・研究への関心がひろがった」という質問項目に対するもの

1.4 授業改善の要望評価：

(表4(1)と表4(2)参照)

質問Fにおいて、その回答率平均が高いほうから10項目をとりあげる。

- a. 全授業の平均において回答率が高い順に、「理解度を把握して授業を進めてほしい(12.5%)」>「理解できるように説明に工夫

がほしい(12.0%)」>「授業内容をもっと易しくしてほしい(10.6%)」>「板書を読みやすくしてほしい(9.9%)」であった。

- b. 「授業のテーマ・目標を明確にしてほしい」に関しては、全授業平均が6.5%であったのに対して、外国語コミュニケーション科目が17.5%、コア教養科目が12.7%であった。

c. 「シラバスを充実させてほしい」に関しては、全授業平均が 2.6%であり、教育科目間で大きな違いはなかった(1.0~4.8%)。

d. 「授業内容をもっと易しくしてほしい」に関しては、全授業平均が 10.6%であったのに対して、

情報処理科目 が 27.7%、基礎科学科目 が 19.5%、コア教養科目が 18.7%であった。

e. 「授業内容をもっと精選してほしい」に関しては、全授業平均が 8.8%であったのに対して、

表4(その1) 教育科目別の要望評価の割合(%)

上段: 15年度前期
下段: 15年度後期

教育科目区分	質問F あなたがこの授業の改善について要望したいことは? (複数回答可)						
	全回答数	(F1) 授業のテーマ・目標を明確にほしい	(F3) シラバスを充実させてほしい	(F4) 授業内容をもっと易しくしてほしい	(F5) 授業内容をもっと精選してほしい	(F6) 授業の進行をゆっくりにしてほしい	(F7) 理解度を把握して授業を進めてほしい
コア教養科目	3537	15.5	3.6	19.7	12.2	7.1	18.1
	1757	12.7	3.5	18.7	12.9	10.3	17.1
個別教養科目	3662	9.3	3.1	7.0	10.2	4.3	7.5
	2576	8.3	3.5	5.5	8.8	4.0	6.3
少人数ゼミナールA	553	6.1	1.6	6.1	5.6	2.7	8.3
	197	3.0	3.0	6.6	3.6	2.0	3.0
少人数ゼミナールB	280	6.1	2.5	10.0	5.0	4.6	7.9
	116	6.9	1.7	2.6	6.0	0.9	8.6
少人数ゼミナールC	153	7.2	1.5	14.4	5.9	3.3	13.1
	113	6.2	4.4	5.3	0.9	0.9	0.9
高年次履修科目	282	7.4	2.8	7.8	11.7	7.8	7.4
	468	7.5	4.1	2.4	8.1	1.5	3.8
言語文化科目	9553	7.3	2.7	9.3	9.3	12.2	12.2
	7935	4.9	2.4	7.6	7.9	9.8	9.1
言語文化科目	231	3.5	1.3	4.3	4.3	7.8	7.4
	168	1.2	1.2	4.7	4.1	9.1	9.4
外国語コミュニケーション科目	138	5.1	1.4	2.9	3.6	2.9	5.1
	64	17.5	4.8	0.0	20.6	0.0	1.6
健康・スポーツ科学 講義	697	9.6	2.0	11.2	7.7	13.5	6.3
	731	9.8	2.7	7.9	14.0	6.2	6.4
健康・スポーツ科学 実習	682	2.9	1.9	1.6	5.0	1.2	1.9
	1314	2.3	2.0	1.2	3.2	0.9	0.8
基礎科学科目	7009	8.9	2.3	21.2	10.3	20.1	28.7
	4065	6.7	2.4	19.5	10.4	17.7	25.5
情報処理科目	783	7.9	2.8	30.0	8.9	24.6	37.9
	589	5.6	1.0	27.7	9.3	20.5	31.1

外国語コミュニケーション科目が 20.6%、健康・スポーツ科学 講義が 14.0%、コア教養科目が 12.9%であった。

f. 「授業の進行をゆっくりしてほしい」に関しては、全授業平均が 12.5%であったのに対して、情報処理科目 が 31.1%、基礎科学科目

が 25.5%、コア教養科目が 17.1%であった。
g. 「理解度を把握して授業を進めてほしい」に関しては、全授業平均が 12.0%であったのに対して、情報処理科目 が 26.1%、基礎科学科目 が 25.0%、コア教養科目が 20.1%であった。

表 4 (その 2) 教育科目別の要望評価の割合 (%)

上段：15 年度前期
下段：15 年度後期

教育科目区分	質問 F あなたがこの授業の改善について要望したいことは？ (複数回答可)				1 回答率の合計	2 後期 / 前期
	(F8) 理解できるように説明に工夫がほしい	(F12) 成績の評価基準を示してほしい	(F13) 声が届くようにしてほしい	(F14) 板書を読みやすくしてほしい		
コア教養科目	24.4 20.1	15.9 12.4	9.2 3.3	25.9 19.1	151.6 130.1	85.8
個別教養科目	9.4 7.1	15.2 12.8	8.1 7.0	12.7 8.1	86.8 71.4	82.3
少人数ゼミナール A	8.9 3.6	15.4 4.1	1.6 1.0	3.4 2.5	59.7 32.4	54.3
少人数ゼミナール B	5.7 6.0	12.5 10.3	2.1 5.2	5.4 0.0	61.8 48.2	78.0
少人数ゼミナール C	9.2 4.4	7.8 8.0	2.0 0.0	5.9 0.9	70.3 31.9	45.4
高年次履修科目	6.0 4.5	11.0 11.5	2.5 6.0	10.3 9.6	74.7 59.0	79.0
言語文化科目	9.7 7.5	10.0 8.1	3.9 2.1	6.3 5.5	82.9 64.9	78.3
言語文化科目	1.7 5.8	7.8 5.3	3.5 1.8	2.2 7.0	43.8 49.6	113.2
外国語コミュニケーション科目	1.4 3.2	11.6 6.3	0.7 0.0	2.9 1.6	37.6 55.6	147.9
健康・スポーツ科学 講義	8.0 7.1	6.9 8.8	3.9 4.5	21.5 23.0	90.6 90.4	99.8
健康・スポーツ科学 実習	1.2 1.1	12.0 11.5	3.8 4.0	1.5 1.1	33.0 28.1	85.2
基礎科学科目	28.4 25.0	8.7 8.4	7.6 7.8	23.9 18.6	160.1 142.0	88.7
情報処理科目	33.3 26.1	7.5 10.4	4.6 1.9	4.9 1.7	162.4 135.3	83.3

1 表 4 - 1 と表 4 - 2 の質問項目の回答率 (%) の合計

2 前期の回答率の合計に対する後期の回答率の合計の割合。100 以下は要望が減ったことを、100 以上は要望が増えたことを示す。

- h. 「成績の評価基準を示してほしい」に関しては、全授業平均が 9.5%であり、教育科目間で大きな違いはなかった(4.1~12.4%)
- i. 「声が届くようにしてほしい」に関しては、全授業平均が 4.3%であり、教育科目間で大きな違いはなかった(0.0~7.8%)
- j. 「板書を読みやすくしてほしい」に関しては、全授業平均が 9.9%であり、健康・スポーツ科学科目 講義が 23.0%、コア教養科目が 19.1%、基礎科学科目 が 18.6%であった。
- k. 10 項目の回答率を合計すると、大きい順に、基礎科学科目 (142.0%) > 情報処理科目 (135.3%) > コア教養科目 (130.1%) であった。回答率合計の小さい順に、健康・スポーツ科学 (28.1%) < 少人数ゼミナールC (31.9%) < 少人数ゼミナールA (32.4%) であった。
- l. 前期の回答率合計に対する後期の回答率合計の比(後期/前期)を算出すると、外国語コミュニケーション科目では 1.48 倍、言語文化科目 では 1.13 倍となり、要望評価が増加していた。他の教育科目における要望評価はすべて減少し(0.78~1.0 倍) 特に、少人数ゼミナールC (0.45 倍) と少人数ゼミナールA (0.54 倍) が顕著だった。

1.5 授業規模(表5参照)

全授業の規模を、履修登録者数によって、30名以下、31~60名、61~150名、151名以上の4つに分けて、授業規模間で回答率を比較する。

- a. 後期において、欠席なしの割合が 30 名以下の規模において小さかったことを除くと、授業規模による欠席回数に大きな相違はなかった。
- b. 授業規模が小さいほど授業の理解修得のために努力したと自己評価する者の割合は高かった。逆に、努力しなかったと自己評価する者の割合は、授業規模が大きいほど高く、151 名以上の規模においては、「ほとんど努力しなかった」への回答率が 40.5%であった。
- c. 積極評価の回答率は、151 名以上の授業規模がもっとも高い「授業の準備が周到になされて

いた(27.4%)」「学者・研究者との出会いがあった(6.1%)」を除くすべての項目において、30 名以下の授業規模がもっとも高い。前期と後期の両方とも、授業規模が大きくなるのに応じて回答率が低くなったのは、「授業内容の構成が適切なものだった」「授業に能動的な姿勢で参加した」の2項目であった。

- d. 前期と後期の両方とも、授業規模が大きくなるにつれて要望評価の回答率が大きくなるのは、「授業テーマ・目標を明確にして欲しい」と「共通授業概要を尊重してほしい」の2項目のみ、授業規模が大きくなるにつれて要望評価の回答率が小さくなるのは「補講を行ってほしい」の1項目のみであった。授業規模と要望評価の高い低いは対応していなかった。「理解度を把握して授業を進めてほしい」「理解できるように説明に工夫がほしい」「板書を読みやすくしてほしい」は61~150名の授業規模においてももっとも回答率が大きかった。なお、記述回答に関して、積極評価の場合は30名以下の授業規模でもっとも多く、要望評価の場合は授業規模と関係がなかった。

1.6 欠席回数と努力評価(表6参照)

欠席回数と努力の自己評価を指標にして、積極評価と要望評価の回答率を比較する。

- a. 積極評価において、欠席回数1回以下と欠席回数3回以上の回答率に相対的に大きな差があるのは「授業に能動的な姿勢で参加した」の項目であった(22.6%と14.4%)
- b. 積極評価において、「授業の準備が周到になされていた」と「学者・研究者との出会いがあった」の2つの項目は、努力した学生と努力しなかった学生の回答率に差がなかった(18.8%:19.5%、2.9%:3.3%)。他の積極評価項目は、いずれも努力した学生の回答率が努力しなかった学生の回答率より高かった。
- c. 積極評価において、欠席が1回以下で、かつ努力した学生(A群)と、欠席が3回以上で、かつ努力しなかった学生(B群)の回答率を比較すると、「学者・研究者との出会いがあっ

表5 授業規模（履修登録者数）別の各質問項目に対する回答率（％）

上段：15年度前期 下段：15年度後期

質問項目	30名以下	31～60名	61～150名	151名以上
C 1	64.0	69.7	67.3	63.5
	54.7	61.1	62.9	61.4
C 2	20.2	19.1	18.3	17.8
	24.6	21.5	21.0	20.7
C 3	9.3	6.9	7.7	8.8
	12.6	10.6	9.2	9.6
C 4	4.7	2.8	3.9	4.5
	6.0	4.7	4.0	5.2
C 5	1.1	0.8	1.9	4.6
	1.5	1.6	2.0	2.6
D 1	19.4	11.0	8.6	4.1
	17.3	13.4	8.9	3.8
D 2	40.8	36.9	28.0	10.8
	40.9	37.1	26.2	11.9
D 3	17.9	20.5	21.4	19.4
	16.5	19.6	22.4	23.1
D 4	9.7	12.0	16.2	19.0
	10.4	11.8	16.1	17.7
D 5	8.4	15.8	22.0	43.2
	11.3	15.1	23.1	40.5
E 1	54.4	46.6	39.8	41.3
	55.5	46.2	42.9	44.0
E 2	27.7	26.7	20.5	17.5
	29.4	26.7	21.5	20.4
E 3	13.3	6.3	8.3	12.5
	17.8	10.3	7.7	9.6
E 4	21.2	16.7	19.5	23.0
	20.9	16.7	18.3	27.4
E 5	31.6	19.4	22.5	19.8
	25.0	19.0	19.6	22.7
E 6	22.9	12.9	7.1	6.7
	25.8	13.8	7.4	8.9
E 7	34.1	28.3	15.5	9.1
	36.0	25.4	13.7	12.4
E 8	28.6	26.1	22.9	18.5
	32.6	23.5	20.5	22.2
E 9	11.2	9.0	6.3	8.5
	16.8	10.9	9.5	8.0
E 10	24.9	12.8	17.0	29.1
	4.3	1.6	3.1	6.1
E 11	7.4	5.6	5.4	4.6
	9.5	5.1	3.5	5.9

質問項目	30名以下	31～60名	61～150名	151名以上
F 1	5.5	6.5	10.3	11.9
	4.1	4.9	8.4	9.3
F 2	0.7	0.6	1.0	1.1
	0.6	0.6	0.7	1.0
F 3	2.9	2.7	2.3	3.8
	2.4	2.4	2.3	3.4
F 4	8.4	10.7	17.0	12.1
	5.6	10.0	13.5	11.3
F 5	6.4	8.1	11.1	11.5
	5.5	7.6	11.0	10.5
F 6	7.9	11.7	14.5	5.8
	6.6	11.4	11.3	5.1
F 7	8.9	14.1	20.2	12.0
	5.9	12.6	16.2	10.3
F 8	6.6	11.9	21.3	15.9
	5.1	11.0	16.1	12.4
F 9	2.7	3.1	3.6	1.6
	1.6	3.0	2.6	0.9
F 10	1.0	2.2	3.0	2.0
	1.0	2.4	2.5	1.6
F 11	1.8	2.6	2.3	1.7
	1.1	2.3	1.9	0.6
F 12	11.0	11.0	10.2	15.0
	8.0	8.5	10.2	12.7
F 13	1.6	4.8	7.1	9.3
	1.5	3.5	5.8	6.1
F 14	3.6	9.3	18.0	18.8
	3.8	8.7	14.1	9.4
F 15	2.1	1.8	1.8	3.6
	2.3	1.6	1.9	2.3
F 16	1.2	1.8	1.7	1.7
	1.6	1.7	1.3	1.6
F 17	3.6	2.9	3.3	1.9
	2.1	2.6	2.4	1.8
F 18	0.6	0.6	0.5	0.3
	0.9	1.0	0.9	0.5
F 19	0.9	0.8	0.6	0.3
	1.0	0.9	0.4	0.3
F 20	10.1	8.5	11.2	11.1
	8.0	7.8	8.0	9.3

E 11とF 20は「その他（記述回答）」の回答率

た」を除いて、いずれの項目でもA群がB群より高かった。また、学生自身にかかわる積極評価の回答率は、「授業に能動的な姿勢で参加した」においてA群がB群の3.5倍、「授業を通して調べる姿勢を獲得した」においてA群がB

群の2.9倍、「授業を通して考える力を培った」においてA群がB群の2.0倍であった。授業担当者にかかわる積極評価のA群のB群に対する回答率は0.9~1.8倍であった。

d. 要望評価の回答率合計において、欠席1回以

表6 欠席回数別及び努力評価別の積極評価と要求評価における回答率(%)

質問項目	欠席1回以下	欠席3回以上	努力した	努力しなかった	(A) 欠席1回以下 & 努力した	(B) 欠席3回以上 & 努力しなかった	A - B
E 1	47.5	40.1	52.6	38.8	53.1	33.6	19.5
E 2	24.8	25.0	29.0	19.5	29.0	20.1	8.9
E 3	10.9	8.0	16.8	4.6	16.9	5.8	11.1
E 4	19.6	17.2	18.8	19.3	19.1	17.1	2.0
E 5	21.2	17.4	26.0	15.4	26.2	13.0	13.2
E 6	13.1	11.9	16.7	8.9	16.6	9.4	7.2
E 7	22.6	14.4	29.0	14.4	29.5	8.4	21.1
E 8	23.6	26.4	27.1	20.8	26.7	23.0	3.7
E 9	11.1	11.0	15.1	7.0	15.1	8.4	6.7
E 10	3.1	3.0	2.9	3.3	3.0	3.4	-0.4
F 1	6.3	9.0	4.7	8.6	4.8	10.9	-6.1
F 2	0.7	0.8	0.6	1.0	0.5	1.0	-0.5
F 3	2.5	3.5	2.5	2.9	2.4	3.8	-1.4
F 4	10.9	10.4	10.7	11.0	11.0	11.4	-0.4
F 5	8.8	9.4	7.5	10.8	7.6	11.5	-3.9
F 6	10.1	8.3	11.7	8.1	12.0	7.4	4.6
F 7	12.9	9.6	12.3	12.9	12.6	9.6	3.0
F 8	12.3	10.8	11.4	13.0	11.8	11.8	0.0
F 9	2.4	2.3	3.2	1.9	3.2	2.5	0.7
F 10	2.1	2.5	2.0	2.4	2.1	2.8	-0.7
F 11	1.7	2.7	1.7	1.9	1.8	3.2	-1.4
F 12	9.5	9.8	8.1	11.6	8.0	10.9	-2.9
F 13	4.2	5.1	3.2	5.5	3.2	6.0	-2.8
F 14	10.1	9.0	8.4	11.7	8.7	11.1	-2.4
F 15	1.9	1.7	1.8	2.1	1.7	1.6	0.1
F 16	1.5	2.0	1.8	1.3	1.8	1.8	0.0
F 17	2.5	1.7	2.7	2.2	2.8	1.8	1.0
F 18	0.9	0.5	1.1	0.7	1.0	0.1	0.9
F 19	0.6	1.2	1.0	0.5	0.9	0.9	0.0

A - Bは、欠席回数が1回以下で、かつ、努力したと評価した者の回答率(A)から、欠席回数が3回以上、かつ努力しなかったと自己評価した者の回答率(B)を引いたもの。E 1 ~ 10 における+はAがBより積極評価が高いことを、F 1 ~ 19 における+は、AがBより要望が多いことを、-はその逆であることを示す。

下の学生と欠席3回以上の学生との間に差は生じなかった(101.9% : 100.3%)

- e . 要望評価の回答率合計において、努力をしたと自己評価した学生と努力しなかったと自己評価した学生との差は 13.7%で後者が大きかった。同じくA群とB群の差は 12.2%でB群が大きかった。
- f . 要望評価において、欠席3回以上で努力しなかった学生(B群)は欠席1回以下でかつ努力した学生(A群)よりも「授業のテーマ・目標を明確にしてほしい」と「授業内容をもっと精選してほしい」の2項目において回答率が大きかった。A群がB群よりも回答率が大きいのは「授業の進行をゆっくりしてほしい」という項目であった。
- g . 要望評価において、「理解度を把握して授業を進めてほしい」はA群がB群より回答率が大きく、「理解できるように説明に工夫がほしい」は両群に差がなかった。

1.7 回収率

回収方法によって回収率は変動する。授業中に配布された評価用紙を学生が回収ボックスに投函する回収方法をとった15年度後期の全体の回収率は、58.7%(前期は60.9%)であった。

- a . 回収率は、履修登録者数に対する回収数の割合として算出している。回収率を、期末試験を受けた学生数に対する回収数の割合として算出すると、15年度後期の全体の実回収率は、62.7%(+3.5%)となった。
- b . 回収率が52.7%だった教養教育科目を強制回収していたなら、評価が実施された授業に全員が出席していたとして、全体の回収率が72.3%となった。回収率が64.5%だった言語文化科目を強制回収していたなら、全体の回収率が71.7%となった。回収率が54.6%だった基礎科学科目を強制回収していたとするなら、全体の回収率が68.6%となった。

【今後の検討課題】

平成15年度後期は、前期と同じ評価用紙を用いたことによって、結果に生じた変動の要因を検討することが可能となった。年度間や学期間の変動を捉えるにあたり、個々の授業担当者内、共通授業概要をもつ授業内、同一タイトルの授業内、同一教育科目内といった分け方がある。変動をもたらした要因を継続的に検討することによって、授業改善の指標の具体化や明確化が図られることになる。

人が人を評価することは原理的に不可能であり、学生による授業評価は、学生に授業の評価者となることを依頼した点検である。評価者としての学生が、どのような評価指標を用いているか、つまり、学生が授業に対してどのような認知を行っているかは、記述回答から推察できる。記述回答を、授業担当者に対する評価の記述としてではなく、学生の観察力、理解力、分析力、洞察力等の端的な現われとして整理することにより、学生がどこまで育っているかについて知ることになる。学生のそうした力について知ったうえで授業を行うことが改善の実をあげることになる。